

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式					
E142J008		絵画演習 (Seminar of Making of Pictures)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	3	教育学部 ≪令和2年度以降入学生用≫	後期	金3	日本語		単独						
担当教員	氏名 石田 翔太 E-mail ishida-syouta@oita-u.ac.jp 内線													
授業の概要	本授業では、20世紀以降の現代絵画表現を学ぶこと、自ら生成した主題に基づいた作品制作を通じて自己を深化させることそのものを目的とします。エスキス、素材・技法の選択、作品展示の方法など、現代絵画のプロセスを体系的に学びながら表現を探索します。また、メディウムスペシフィシティやグローバルサウスの芸術など、現代美術における重要な動向にも触れ、絵画の枠を超えた視点を養います。単なる技術習得ではなく、現代の思想や社会的背景を踏まえながら表現を確立すること学びます。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	現代絵画表現の発展的な考え方を理解し、主題を表現するに相応しい支持体や素材、技法、展示場所を選択できる。						○							
目標2	自身の絵画表現に必要な画材から、応用・発展的な使用法や技法を主体的に開発し、実演することができる。								○					
目標3	主体的に主題を生成し、感じることを考えることを絵画表現に応用することができる。										○			
目標4	作品制作と鑑賞を通して、自分が感じたことや考えたことを的確に言葉で説明することができる。								○					
目標5	作品鑑賞を通して、受講者相互の多様な描画表現のあり方や思想について尊重し、意見交換など協力することができる。									○				
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度 (計10)								3	1	3	1	2		
授業の内容														
1	オリエンテーション、現代絵画（※現代平面を含む）の紹介エスキス（ドローイングを貯める）。【導入講義】20世紀前期・中期の絵画													
2	現代絵画における絵画空間の考え方、エスキス（ビジュアルシンキング）。【導入講義】20世紀後期、21世紀の絵画													
3	現代絵画におけるテーマ生成、エスキスをまとめる、ナラティブ理論を用いた感性育成													
4	絵画制作①：支持体の選択による意義生成。【導入講義】現代芸術の表現と絵画表現の比較													
5	絵画制作②：素材の選択による意義生成													
6	絵画制作③：表現技法選択による意義生成。【導入講義】グローバルサウスの芸術													
7	絵画制作④：作品発表の場所その選定の意味【導入講義】サイトスペシフィックアート													
8	絵画制作⑤：制作準備、下地作り、ナラティブ理論を用いた感性育成													
9	絵画制作⑥：下色と定着材の操作													
10	絵画制作⑦：意図のある発色法													
11	絵画制作⑧：作品の特性「メディウムスペシフィシティ」。【導入講義】クレメント・グリーンバーグ													
12	絵画制作⑨：伝統的メディウムにおける自己主張の方法。【導入講義】ロザリンド・クラウス													
13	絵画制作⑩：作品の耐久性と保存、継承													
14	絵画制作⑪：完成に向けた表現。【導入講義】芸術の終焉論													
15	絵画制作⑫：作品の仕上げ、総合鑑賞会													
ライクニング	A:知識の定着・確認	○	受講者は制作時に感じたこと、考えたことをメモにして貯め、制作のナラティブを形成する。実技課題ごとに行う作品鑑賞会は作品のプレゼンテーションと意見交流を行う。さらに、受講者の制作メモを活用し、受講者間で相互作用的に感性の育成を促進させる。				工夫その他の	制作メモを活用した「感性の交換」により、知識と技術だけでなく、美的感性の育成にも取り組む。						
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各課題で作品のプランニングを行う。(9h) 様々な現代アートの作品について調べる。課題に関する描画材料について調べ、準備する。(10h) 現代社会の動向について調査する。(9h)												
	事後学修	自身の作品制作に応じた技術や描画材料、必要な調査、異分野の知見について学習し、制作に反映させる。現代アートに関する基本的な知識を得る。(18h)												
	想定時間合計	46												
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントなどを使用する。													
参考書	必要に応じてプリントの配布や参考資料を紹介する。また、以下を参考書として挙げる。 西村清和 編・監訳『分析美学基本論文集』勁草書房、2015年、ISBN9784326800568 Ruangrupa『Documenta Fifteen: Handbook』Hatje Cantz Verlag GmbH & Co Kg、2022年、ISBN978377552824													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実技課題作品	50%	○	○	○							
	作品制作に関するプレゼンテーション、意見発表	25%		○	○	○	○					
	問題意識、目的意識	25%	○	○	○	○	○					
		すべての制作課題の完成、提出を単位取得の条件とする。										
注意事項	授業で使用する素材は受講者が準備する（詳細は第1回で説明する）。授業で使用する一部の画材材料費を集める（目安として1,500円程度）。 絵画制作に取り組むため、衣服に絵具などが付着することがある。受講者は各自その点に対策すること。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	中学校、高等学校教職員											
実務経験を いかした教育内容	実際の教育現場で想定される問題や課題、教授法の事例を紹介して教職意識を高めると共に、その適切な対応法を身につける。											